関西学院千刈キャンプ通信

森のキャンパスから

創刊準備号（その2）　　発行日　2013年2月15日

「千刈いきもの探検隊」 2012年12月2日
（関西学院大学教育学部湊研究室との協働プログラム）

この通信は、千刈キャンプとこの森を愛する皆さんとを結ぶ接点となることを願って生まれました。主に次のような方々へお届けしています。

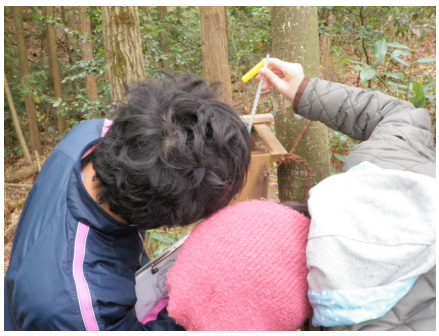
- ご利用団体
- 関西学院の児童・生徒・学生や保護者
- 千刈キャンプのサポーター
- 関西学院の各部課
- 千刈キャンプのスタッフと名刺交換させていただいた方々

主な目次：

千刈フェスティバル	2
オータムフェスティバル	2
冬のぽかぽかキャンプ	2
ツリーイング体験会	3
千刈キャンプの草木と遊ぶ	3
お知らせ	4

落ち葉が積もり寒くなった森で生き物たちはどう冬を越そうとしているのか？そんなテーマで「千刈いきもの探検隊」が12月2日実施されました。

このデイプログラムは、湊秋作・関西学院大学教育学部教授の研究室との共同企画としてはじめて開催。「巣箱の調査や設置など、自然との直接的なふれあいを通して自然への興味を持ち、森にいる生き物を知る。感想などを言葉にまとめ自分の言葉で表現する」というねらいで実施されました。



写真：巣箱を開けている子どもたちと湊研究室の学生スタッフ

当日は千刈リーダー3人もグループリーダーの一人として、場内の案内や子どもたちのフォローや安全確保などの役割を担いました。

参加者は関西学院初等部の低学年を中心とする小学生28人。大学生と一緒に冬の森の中、巣箱にいる生き物探しをしました。巣箱は湊研究室の学生による手作りで、約60個がキャンプ場内のあちこちに仕掛けられていました。

恐る恐るあけた巣箱の中は、空っぽのものもあれば、ムカデやカメムシなどが卵を抱いていたり、固まって越冬しているものがあったりなど、様々でした。

「巣箱探しが楽しかった」、「カメムシの卵が気持ち悪かった」、「アリの軍団がすごかった。こうやって生きていくと思った」など、初めての体験に子どもたちも様々な感想をもったようです。

湊先生によると「巣箱は森の窓」。巣箱を通じて森にどんな生き物が暮らしているのかがわかる。だから森の中を見ることが出来る窓というわけです。

また、事前準備の打ち合わせ時に出た「直前に巣箱を開けて中を見ておいたほうが良いのでは」という疑問に、「中の分からない巣箱を開ける。何もないかもしれないが、それがサイエンス。そして、その時のわくわく感や驚きを共有することを大切にして欲しい」と湊先生がアドバイスされていたのがとても印象的でした。

「なにもなかった」という子どもたちもいましたが、そういった結果も含めて自分の手で調べフタを開ける経験がやがて科学へつながるというメッセージは伝わったように思います。また、初等部と関西学院大学それぞれで学ぶものが共に活動する場を千刈キャンプが提供できた点からも意味のあるプログラムとなりました。

写真：湊教授からのレクチャー。森やそこに暮らす生き物たちの生態について学びました。

千刈フェスティバル　2012年10月14日（日）

秋も楽しい千刈キャンプを紹介する毎年恒例のデイキャンプ「千刈フェスティバル」を今年度は10月14日（日）に開催しました。今年の春や夏に千刈キャンプを利用された団体や家族、毎年千刈フェスティバルを楽しみに来られる常連さんと現役リーダーたちを合わせるとおよそ60人が参加しました。

「クリ拾いが楽しかった」、「童心に戻って楽しめた」、「足湯がよかった」など大人も子どももそれぞれのペースで千刈の秋を満喫されました。

後日談ですが、参加された方から「千刈フェスティバルのテーマソングを子どもが気に入って、ずっと唄っている」というお話を耳にしました。短い時間での出会いでも、記憶に残る楽しい一日になっているようで、千刈キャンプとしてはとても嬉しくなるニュースでした。**（写真は閉会式）**

オータムフェスティバル　2012年11月24日（土）

千刈リーダーOBOGのホームカミングとして行われるオータムフェスティバル。今年度は11月24日（土）に開催され、OBOGとその家族をはじめ、千刈キャンプ所長、副所長、現役リーダーなどあわせて100人近くが集まりました。

今年のオータムフェスティバルは、打樋副所長（社会学部宗教主事）の司式のもとリーダーOBの南徹さん没後50年を覚える追悼礼拝**（写真）**で始まりました。続いて行われた昼食会はセンター棟食堂で行われ、コックの佐藤さんと南さんの手によるビュッフェを頂きました。特にスモークサーモンやアップルパイなど懐かしい味を久々に堪能されたようです。

「熱心に活動されていてとても頼もしく思います。これからもキャンプ場をよろしく」、「昔も今も変わらない一生懸命なリーダーに、とても爽やかな気持ちになれました。この4年間は社会に出てからの大きな心の支えです。ぜひ頑張って実りある大学生活を送ってください」（OBOG）

約60年で場内の様子が変わる一方で、リーダー達が汗を流す姿は変わらないことがOBOGのコメントからもうかがえます。この森を守ってきた人たちの働きに想いをはせるとともに、これからを考えるときになった1日でした 。

冬のぽかぽかキャンプ　2012年12月9日（日）

小学1年から6年生の男女39人が参加。

恒例のあったかランチは自分たちで焼いたパンとリーダーが前日から仕込んでおいたビーフシチュー。うまく焼けたグループもあれば、そうでないところもあったりでしたが、文字通り手作りのパンを味わいました。

昼食の後は、キャンプ場全体を使った陣取りゲーム。あちこちで待つリーダーから出される課題をグループで協力し、次々にクリアしていきました。

冬の太陽はあっという間に低くなり、夕方を迎え、自分たちでついた餅を手に子どもたちは帰途につきました。

少し風のあった午前中の気温は約3度。体感温度はそれ以下のはずだったので、この日は冷蔵庫の中で遊んでいたようなもの。それでも森の中を走り回る子どもたちはジャケットを脱ぐほどでした。子どもは風の子という言葉がぴったりの一日となりました。

写真左から：お餅つき・焚き火パン

木と遊ぶ　～ツリーイング体験会～　2013年1月27日(日)

昨年度冬に初めて行い好評だった「ツリーイング」体験会を、今年度もTMCA（ツリーマスタークライミングアカデミー）近畿・中国の皆さんの指導で1月27日に開催しました。

ツリーイング（Tree＋ing）とは、木にかけたロープを使って登る活動。専用のロープやハーネス（安全ベルト）を使うので、安全にそして木に優しく登ることができるのが特徴です。

参加者は、大人子ども合わせて約30人。冬枯れしている千刈の森で各々の速さで木の上を目指しました。体格の小さな子どもたちのほうが、軽いこともあってか、案外するすると登っていったように見えました**（写真）**。

なかなかできない体験なので、また違う季節でぜひ開催したいと考えています。

自然の素材を使ったクラフトなどを開発中

千刈キャンプで行う木や竹を使った工作メニューをもう少し増やすともに、共に昔から伝わる草木遊びを取り入れられないかと考え、秋以降、活動メニュー開発の試行錯誤を重ねています。

そこで登場願ったのが、「草木あそび塾」主宰の松井鴻さん（写真右・大阪府豊能郡在住）。長年、都市公園や教育キャンプの現場で、草木や花を使った昔から伝わる素朴な遊びの数々を紹介している野遊びの達人のお一人です。

千刈キャンプ場内にある自然の素材を使ってどんなものが出来るかを考えるにはまず体験からということで、いくつかの利用団体にモニターになっていただき、季節に応じた草木遊びのプログラムを提供する形式で行っています。春以降もそれぞれのシーズンで何ができるかを試してみようと考えていますのでモニターになってみたい等ご興味ある方はぜひ千刈キャンプまでご相談下さい。

また、今回より松井さんのコラム「千刈キャンプの草木と遊ぶ」もスタートします。あわせてご一読下さい。

千刈キャンプの草木と遊ぶ 【春の花　ツバキ】 文と絵：松井鴻さん（草木あそび塾主宰）

かつての中部地方以北の子どもたちがする草木遊びを調べた長澤武の著書「植物民俗」（法政大学出版局）によると、「筆者が採取しただけでも、遊びに使用される植物は合計112種もあった。内訳は草本が76種、木本が36種だった」と、実に驚くべき数です。かつての子どもたちが野山を駆け回り、遊ぶ様子が目に浮かびます。

きっと、千刈キャンプの里山にもそんな光景がみられたのだろうと想像し、「この森での遊びがどのくらいできるのだろうか」という思いから、千刈キャンプの四季折々の植生にそって草木あそびを紹介いたします。ぜひ親子で草木や花に触れる時間を作ってみてください。

□ツバキ遊び《雛人形》

落葉した明るい雑木林のなかにツバキが点在しています。春の木と書いてツバキ、この光沢のある葉、早春の林に明るく咲く花は、子どもたちにとって何よりも遊び仲間でした。その証拠に数多くの遊びがありました。そのなかから季節柄、雛人形を作ってみました。

〇作り方

葉を横に持って、くるくると円錐状に巻き、小枝、竹ヒゴなどで縫い合わせるように止めます。

頭は季節折々の花などを差し込む、そのことによってお人形さんに季節感が生まれてきます。今回はツバキの萼を女雛に小枝を斜めに切り雄雛にしました。また、男雛に剣を見立てて小枝を脇腹に差すと、より威厳のあるものになります。

春休み中の空室状況

暦の上では春になりましたが、3月末でも小雪が舞うのが千刈キャンプです。まだまだ寒い毎日ですが、徐々に春に近づいています。2月、3月は中高大それぞれのクラブやサークルなどの合宿や新入生オリエンテーションキャンプ、リーダーズクラブのワークキャンプなどで千刈キャンプは賑わいを取り戻します。わずかですが、空室日もありますので、ご利用希望の場合は千刈キャンプ事務室までご相談下さい。

2013年度夏期利用予約について

千刈キャンプでは、夏期（7月中旬から8月末まで）のご利用については、各団体の利用希望期間を検討調整の上、千刈キャンプで決定する方式を採っています。2013年夏期の利用団体の募集は3月末に行う予定です。利用をご希望される場合は、まず千刈キャンプ事務室まで電話やメール等でお問い合わせ下さい。

なお施設の性格上、千刈キャンプの主催事業の予定をはじめ、関西学院の各学校、キリスト教に関連する諸団体の希望日程が優先されますのでご承知おきください。

Camp to Campus（C2C）プログラム　～千刈キャンプをあなたのキャンパスへ～

「千刈キャンプっていい場所と聞くけど、ちょっと遠いなぁ」という声をキャンパスで聞くことは珍しいことではありません。「名前は知っているけど行ったことがない」、「どんなことができるかよくわからない」など、千刈キャンプへの疑問にお答えすべく、自然体験やチームビルディング、グループワークの様々なアクティビティをギュッと凝縮した形でキャンパスへお届けします。キャンパス内での自然体験プログラムや、教室内や広場を使ったチームビルディングエクササイズなど、千刈プログラムが得意とする様々な活動をアレンジして実施します。

千刈キャンプで出来ることをを知るだけでなく、緑豊かなキャンパスをより身近に感じてみたいときや、ゼミやサークルなどのメンバー同士の関係作りやリーダーシップ研修などとしても活用可能です。

利用をご希望される場合は、まず千刈キャンプ事務室まで電話やメール等でお問い合わせ下さい。

ここも関学　千刈キャンプは森のキャンパスです

私たちが目指すのは「森のキャンパス」です。約8万㎡の里山の自然と約150人までの宿泊研修機能に加え、指導スタッフが常駐するなど、大学が保有する施設としては全国でもユニークな資源を持っているのが千刈キャンプの特色のひとつです。自然の中で時間に縛られない生活空間を共有することで、研究はもちろん、学生とのコミュニケーションも深まるでしょう。また、環境やリーダーシップなど実践的な教育活動の展開が可能です。学内だけでなく学外にも開かれた場として、教会・幼稚園・学校・生涯学習など一般の団体グループの方々にもご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちしております。

関西学院千刈キャンプ　〒669-1507 兵庫県三田市香下1817-1

電話 079(563)5233　FAX 079(563)5235
Email: campsengari@kwansei.ac.jp

website　http://www.kwansei.ac.jp/f_sengari/index.html
facebook　http://www.facebook.com/CampSengari

つぶやき

第1号は勢いで作れたものの、まだまだ試験飛行中。なんとか目標の今年度2回発行はクリアできた。安定飛行にはまだ時間がかかるかも（益）